

# ヨコハマ人・まち

第26号

まちへの人がまちをつくる

発行：横浜市 都市整備局 都市づくり部 地域まちづくり課 TEL045-671-2696 FAX045-663-8641  
Email: tb-chiikimachika@city.yokohama.jp

- 「滝頭・磯子地区 防災まちづくり計画」を初の「地域まちづくりプラン」として認定
  - 環境都市横浜をめざして～横浜における「グリーンマップ」と「カーフリーデー」
  - まちづくり活動情報（募集案内）
- 【ヨコハマ人・まち 目次】

2007年10月25日、滝頭・磯子まちづくり協議会が作成した「滝頭・磯子地区防災まちづくり計画」が、横浜市から「地域まちづくりプラン」として認定されました。

これは、地域住民が主体となって作ったまちづくり計画を市が「地域まちづくりプラン」として認定するという制度で、「滝頭・磯子地区防災まちづくり計画」は、その根拠となる横浜市地域まちづくり推進条例（注1）が施行された2005年10月以来、初めて認定されたプランとして注目されています。

【詳しくは】

<http://www.city.yokohama.jp/me/toshi/chiiKimachi/katsuyou/pl-ninteibo.html>

## 「滝頭・磯子地区 防災まちづくり計画」

を初の  
「地域まちづくりプラン」



会にまたがる7つの自治会・町内会を基盤に、「滝頭・磯子まちづくり協議会」を結成しました。以来、まちづくり支援団体、横浜市、磯子区などの関係機関と連携し、約2年の検討を行い、防災まちづくり計画を作りました。

豊かで魅力的な

まちづくり

～住環境の向上のために

この間、協議会では、毎月運営委員会を開催して計画を検討し、その状況は2、3か月ごとに発行する「いえ・みちまちニュース」に載せ、全戸配布し、2007年12月で13号になりました。また、まち歩きやアンケートを実施し、地域の声を計画に反映してきました。

そのような中、できることからやろうということで、市の整備助成金を活用して、道路の端切れ地を花いっぱい広場に変身させ、地域の人たちで管理しています。国道16号に面したこの三角広場は、今や滝頭・磯子地区のまちづくりのシンボルになっています。

## 滝頭・磯子地区の特性と

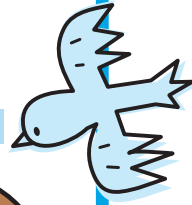
### 防災への取り組み

滝頭・磯子地区は、横浜市の郊外部が高度成長期以降に計画的に整備されたのとは対照的に、この地区に残された市電保存館が象徴するように、明治45年に路面電車（後の市電）が八幡橋まで伸びたのをきっかけに市街化が進み、まちの原型が出来上がりました。このため、歴史と人情を感じさせるまちである一方、細い路地が入り組んだ中に木造住宅が立ち並び、ひとたび大地震が起これば、家屋の倒壊や大規模な火災が心配されるまちでもあります。

滝頭・磯子地区は横浜市の「いえ・みちまち改善事業」（注2）の対象地区に指定され、住民たちは、町内会役員や公募メンバーを中心とした防災まちづくり勉強会から始め、約2年間パトロールや見学会を重ねて2005年6月に、2つの連合町内



できあがった防災まちづくり計画には、3つの目標（安心して住み続けられる住環境／災害時にも互いに助け合い、消防・救急活動や避難が円滑にできるまち／花とみどりが溢れ、潤いのある街並み）と計画図、そして16のプロジェクト案が掲げられています。プロジェクトには、それぞれについて、「協議会が実施すること」と「協議会が行政等に働きかけていくこと」が具体的に示されています。その中から、緊急性・必要性の高いプロジェクトを重点的に進めるため、現在は、月に一度程度開催する運営委員会と並行して、



プロジェクトごとに部会を設けて活動を始めています。まずは、道路の拡幅整備や電柱の移設を進める「道路部会」、建物の耐震化の推進や災害時要援護者の避難等の問題を検討する「防災部会」、そして、平成19年4月27日未明の火災でおよそ半分以上が焼失した商店街「浜マーケット」の再建を支援する「浜マーケット支援部会」を立ち上げました。

して、より多くの地域の方々が協議会の活動に参加してもらえるようになると思います。」と滝頭・磯子地区に関わった印象をお話し頂きました。

今後、滝頭・磯子地区が先駆的なモデルとなり、他の地域でプランづくりとその実現のための組織が立ち上がることが期待されます。その際、市民が主体となり、行政及び専門家と協働する仕組みが地域におけるまちづくりに有効な手段であることが、ますます実証されることになるでしょう。

## 地域全体で参加できる

### 仕組みづくり

まちづくり協議会副会長である内藤さんは「例えば、道路で言えば、国道、県道、市道で管轄が異なるために、うまく連携が働かないことがあります。お互いの役割を認識した地域の継続的なネットワークが大切です。」とおっしゃいます。また、「住民には出来ることと、出来ないことがあります。経費もかかるので、簡単には進まないことも。もちろん出来る限りの努力はしますが、住民主体の組織で力が発揮できるよう、行政からのサポートも必要です。」と役員の小原さん。

専門家の立場で協力してきた桜井さんは「この滝頭・磯子地区は、7つもの町内会が集まり、区域も広い、ため、当初は意見をまとめていくのが難しいかと思いました。しかし、住民の皆さんのまちづくりに

対する意識はとても高く、課題を出し合い別に焦点を絞ることでまとまってきました。息の長い事業なので、協議会を軸に、今後一歩一歩、充実したコミュニティづくりができていくと期待しています。」と語ってくださいました。

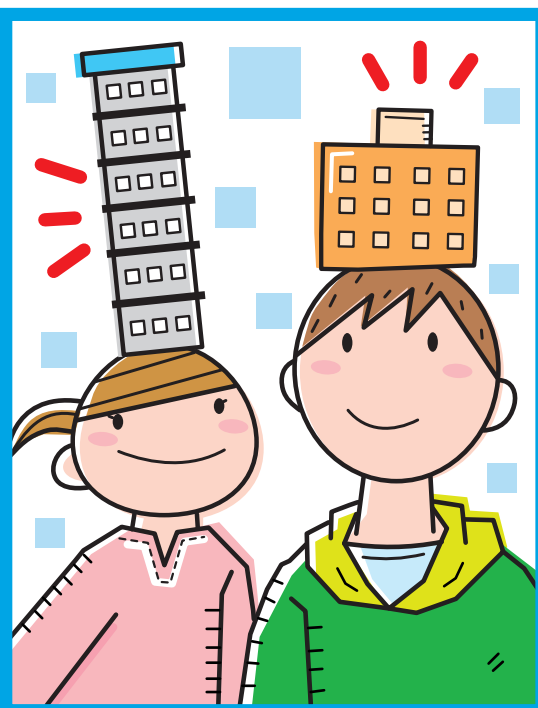
また、もう一人の専門家の片岡さんは、目に見える成果のない計画づくりそのものでは達成感が得られにくかったため、できることからやっていくことによって計画の実現に見通しを与えることに苦心されたそうです。また、「協議会の議論で難しい局面になっても、必ず誰かがポジティブな意見を言って、『それでやっていきましょう』という結論になることが何度もありました。地域の持つ力強さと柔軟さがあるように感じます。それぞれの部会の活動を通

（注1）『横浜市地域まちづくり推進条例』

横浜市地域まちづくり推進条例は、主体的にまちづくりに取り組もうとする市民を支援する制度を定めています。具体的には、市が、まちづくりの制度や地域の合意形成についてアドバイスする専門家やまちづくり支援団体（専門家集団）の派遣を行っています。市民の組織に、専門家が派遣され、計画の作り方や合意形成のための工夫や手順、計画の実施にあたっての取り組み方などを助言したり、関係する行政機関に対して地域住民の考えを代弁することがこの制度の特徴です。

【詳しくは】

[http://www.city.yokohama.jp/me/toshi/chiikimachi/katsuyou/08\\_jourei.html](http://www.city.yokohama.jp/me/toshi/chiikimachi/katsuyou/08_jourei.html)



（注2）『いえ・みちまち改善事業』

横浜市では、木造住宅密集地のような防災上の危険が最も予測される地域の改善のため、市内23か所合計660haを指定し、『いえ・みちまち改善事業』を2003年に開始しました。この事業は、地域住民が防災情報を共有し、行政と協働で計画をつくり、狭あい道路拡幅、小広場整備、建替促進、耐震改修など、防災まちづくりを段階的に推進し、地域の防災性の向上と住環境の改善を図ろうというものです。

【詳しくは】

<http://www.city.yokohama.jp/me/toshi/iemichimachi/index.html>

# 環境都市横浜をめざして ～横浜における「グリーンマップ」と「カーフリーデー」～

横浜は、横浜港、みなとみらい、中華街など観光地としても、また、身近な自然や歴史的建造物なども多く、様々な顔をあわせもつ都市です。市民や行政のまちづくりの試みも多様です。

今回はここ横浜を、環境に配慮した、住みよい、魅力的なまちにしていこうとする市民レベルの取り組みをご紹介します。

## グリーンマップ横浜

「グリーンマップ横浜」は、市民自らが横浜のまちを歩き、情報をつかみ、地図に加工し、発信していこうとする団体です。

「グリーンマップ」は、「都市に住んでいる人々が、環境とのつながりを再発見するためのツールを作りたい。」という趣旨に賛同する人々によって、1990年代の初めにアメリカで生まれた取り組みですが、現在では、世界50カ国・400以上の地域に普及しています。その中でも日本は、取り組んでいる地域が最も多く、横浜だけでなく、函館、広島、京都など、約40箇所の地域でグリーンマップが作られています。

「グリーンマップ横浜」を立ち上げた高橋晃さんは、グラフィックデザインの仕事をしています。かつて、「デザインは社会の役にたっているか」「消費者の購買意欲を煽り、量消費社会を助長しているのではないか」と自問自答していたころ、情報デザインの国際シンポジウムに参加しました。ここでグリーンマップの提唱者であるニューヨークのウェンディ・ブラウアー氏の話聞いて強く共感し、横浜の情報をマップで発信する情報デザインの試みが始まったのです。

横浜のグリーンマップの第1弾は、2006年に完成した、みなとみらい・関内地区の「ハマチャリ・ロードマップ」です。このマップは、グリーンマップ横浜、放置自転車をレンタサイクルとして再活用する「ハマチャリ」を運営しているNPO法人ナイスヨコハマ、印刷等を行っている株式会社YCDキュメントの3団体が共同で発行しました。

グリーンマップは、世界共通の「グローバルアイコン」と呼ばれる100個以上の絵文字と、地域独自の「ローカルアイコン」を使って地図をデザインします。横浜を象徴的に示しているローカルアイコンとして、歴史的建造物活用のアイコンがあります。横浜は、数多く点在する歴史的建造物を修繕して再活用しており、これらは「ハマチャリ・ロードマップ」の中で、「エコビルディング」としてマッピングされています。「ハマチャリ・ロードマップ」では、その他に、ハマチャリ・ステーション、エコ散策コース、花の名所、お手洗いの場所、アトスポットなどが表記されています。観光客だけでなく、通勤者、住民にも楽しみながら活用できるマップです。

「グリーンマップ横浜」では、戸塚区舞岡柏尾地域の福祉マップや都筑区の防災マップの制作にも協力してきました。南区でも区民会議と一緒に防災マップを制作中です。

高橋さんは、「今後の展開として、多様なテーマを貫く共通言語になる共通アイコンを提案し、標準化していきたい。市内の様々な地域でマップを作っていて、それらを合わせて横浜のマップができれば面白い。」とおっしゃいます。

実際に自分の目で見たものを地図にすることで、単にその都市の様子を知るだけではなく、地域の様々な情報が市民の手で整理され、データベースとして構築されるとともに、マップづくりに参加する人と人との相互交流も促進します。

## 横浜カーフリーデー

2007年9月22日、「横浜カーフリーデー2007」が実施されました。1998年にフランスで始まった「カーフリーデー」は、今では世界中で1700以上の都市で実施されています。都市で自動車を使わない「クルマの休日」を体験して、クルマ優先の社会が生み出す様々な問題を見直すきっかけをつくり、クルマとの関わりを社会全体から改善しようとする社会実験です。「都市生活のあり方」を視野に入れ、まちの楽しさや文化を大切に作る社会をつくろうとする取り組みでもあります。

「横浜カーフリーデー2007」は、NPO、商店街、会社など60以上の組織から構成されるカーフリーデー実行委員会によって実施されました。4回目となる「横浜カーフリーデー」では、横浜市中区の日本大通りやイセザキモールを歩行者に開放して会場が作られ、会場のあちこちで、実行委員会を構成する組織と地域の方々やボランティアが協力したイベントが行われました。スタンプラリー、レンタサイクル、自転車講習会、ペロタクシー、インラインスケート、フリーマーケット、パネルやエコカーの展示、省エネルギーや新エネルギー普及啓発教材の実演、ソーラークッキング、パレード、講演会、上映会、G30の啓発などです。「グリーンマップ横浜」も、カーフリーデー横浜の会場で、「ハマチャリ・ロードマップ」を配布し、キャンペーンを行いました。

日本でのカーフリーデー参加都市が集まり、毎年報告会が開催されています。次回の報告会の日程は以下の通りです。

- 日時 2008年1月30日(水) 13:30～16:30
- 会場 東京ボランティア市民活動センター  
(東京都新宿区神楽河岸1-1 セントラルプラザ10階) JR飯田橋駅下車すぐ
- 主催：カーフリーデー・ジャパン  
<http://blog.goo.ne.jp/cfdjapan/>

人とのつながりや環境保全が叫ばれる中、人々が、知恵をいかし、共有できる活動が必要とされています。エコロジカルな視点の共有と環境改善を行うことができるグリーンマップやカーフリーデーは、まさにそうした目的にうってつけの活動ではないでしょうか。

# よこはまのまちづくり活動情報 (募集案内)

## 財団法人世田谷トラストまちづくりシンポジウムご案内 『まちの小さな、新しい公共空間をつくろう ～地域共生のいえづくり～』

### ■ 主旨

近年、私有地が近隣に開放され、“まちの小さな、新しい公共空間”として、市民により運営される事例が全国に広がっています。その場所が生まれた経緯は様々ですが、従来の公共施設とは異なる親しみやすい空間と柔軟な運営形態が、多様な人々をひきつけ地域コミュニティをやわらかく育てています。

私たち財団では、このような場の創出を後押しするため、3年前から「地域共生のいえづくり支援事業」を土地・建物所有者に呼びかけて始めました。そして、現在、区内に5軒の「地域共生のいえ」が誕生しています。

今回のシンポジウムでは、現代社会や地域コミュニティにおけるこのような場の意味を改めて見つめ直します。そして、そこがいきいきとあり続けるための運営の工夫、さらに、こうした取り組みの輪を広げるための支援のあり方について、皆さんとともに考えます。

### ■ 日時

平成20年2月29日(金) 13時～18時(開場12時30分)

### ■ 会場

駒澤大学深沢キャンパス アカデミーホール

### ■ 参加費

無料(先着250名)

### ■ 申込み方法

FAX、郵送、E-mailにて、氏名、年齢、連絡先電話番号、住所、E-mailアドレスを記入の上、お申込みください。1月28日(月)より受付開始。

### ■ 申込み先

財団法人世田谷トラストまちづくり  
トラストまちづくり課シンポジウム担当  
〒155-0031 東京都世田谷区北沢2-8-18  
FAX 03-6407-3319 E-mail sympo@setagayatm.or.jp

### ■ 主催

財団法人世田谷トラストまちづくり

### ■ 後援

世田谷区/世田谷区社会福祉協議会/財団法人まちみらい千代田/  
財団法人練馬区都市整備公社練馬まちづくりセンター/財団法人としま未来文化財団/NPOまちの縁側育み隊/NPO SAHS/NPOコレクティブハウジング社ほか

### ■ URL

<http://www.setagayatm.or.jp/trust/emergence/symposium/2008/index.html>

## 第16回「住まいとコミュニティづくり 活動助成」

市民主体の住まいとコミュニティづくりを支援する本助成事業は、1993年に開始以来、これまでに200件以上の助成を行っています。この助成がきっかけとなって、大きく発展していった活動も各地に増えています。第14回より、新たに、いわゆる事業化により活動の発展を図ろうとしている団体を複数年度に渡り支援していく「特別助成」のプログラムを設けています。意欲に満ちた方々のご応募を期待します。

### ● 助成の概要

「一般助成」「特別助成」の2つに分けて実施します。それぞれの概要は以下の通りです。

#### 1 一般助成

##### ・ 内容

年度を単位とした活動を支援するもので、1年間の活動に助成を行います。継続して助成することがありますが、この場合も各年度ごとにあらためて申し込み、選考を受けることとします。

##### ・ 金額

1件あたり100万円を上限とします。

##### ・ 期間

2008年4月1日から2009年3月31日までの1年間。

#### 2 特別助成

##### ・ 内容

サービスを提供しその対価を得るなど、いわゆる事業化(事業性の導入)により活動の発展を図ろうとしている団体を支援するもので、原則として2年間の活動に助成を行います。ただし、年度ごとに継続助成が適当かどうかの評価を当財団で行います。

##### ・ 金額

1件あたり100万円を上限とします。

##### ・ 期間

2008年4月1日から2009年3月31日までの1年間。

#### 2 特別助成

##### ・ 内容

サービスを提供しその対価を得るなど、いわゆる事業化(事業性の導入)により活動の発展を図ろうとしている団体を支援するもので、原則として2年間の活動に助成を行います。ただし、年度ごとに継続助成が適当かどうかの評価を当財団で行います。

##### ・ 金額

1件あたり各年度100万円を上限とします。

##### ・ 期間

2008年4月1日から2010年3月31日までの2年間。(ただし、2年間の助成が終了後、当財団が特に必要と判断した場合は、さらに1年間助成を行うこともあります。)

### ● 助成の対象となる団体および活動

#### 1 助成の対象となる団体

営利を目的としない民間団体(特定非営利活動法人もしくは任意団体)。団体として、代表責任者が明確であること、意思決定のしくみが確立されていること、予算決算を含む会計処理が適切に行われていることが必要です。

#### 2 助成の対象となる活動

住まいとコミュニティづくりに関わる以下のような分野についての活動。

##### ○ コミュニティ施設の提案・創出

子どもの遊び場やお年寄りがくつろげる場所など、コミュニティを豊かにする施設を提案し、その実現をめざす活動。

##### ○ 住環境の保全・向上

歴史のある建物の保全・活用、花や緑を増やす、街並み景観の向上、バリアフリーのまちづくり、高齢者や障害者などに対する居住支援など、住まいの環境をよくする活動。

##### ○ 地域の防災・防犯

安全で安心して暮らせる地域の実現をめざした活動。

##### ○ 入居者参加の住まいづくり

コーポラティブハウスなど入居希望者があらかじめ参加する集合住宅の建設をめざす活動。また、建て替えや修繕などの集合住宅の再生をめざす活動。

##### ○ その他

その他、豊かな居住環境の実現につながる活動。

### ● 募集の期間

2007年11月15日(木)～2008年1月18日(金)

※ 詳細は、以下のURLをご覧ください。

<http://www.hc-zaidan.or.jp/promotion/promotion2008.html>

### ● まちづくりについての情報を募集しています。

まちづくりに関するイベントや参加者募集、地域で行っているまちづくりの取り組みなどの情報を下記までお知らせください。このページ及びメールマガジン「ヨコハマ人・まち」で広報のお手伝いをします。

情報提供のあて先:

横浜市 都市整備局 都市づくり部 地域まちづくり課

TEL : 045-671-2696 FAX : 045-663-8641

e-mail : tb-chiikimachika@city.yokohama.jp

「ヨコハマ人・まち」は地域まちづくりに関心のある方への転送、メールマガジンへのお誘い大歓迎です。

メールマガジンの配信申し込み・停止は、下記のアドレスからお願いいたします。

<http://ml.city.yokohama.jp/mailman/listinfo/hitomachi>

### ★「ヨコハマ人・まち」バックナンバーはこちら

[http://www.city.yokohama.jp/me/toshi/hitomati/back\\_num/index.html](http://www.city.yokohama.jp/me/toshi/hitomati/back_num/index.html)